

# 山行報告

## ■スノーシュー上高地

- 日 程：3月9日(水)～11日(金)
- 参加者：1班 L上田 SL尾内 小田 黒本 笹木 佐々木  
2班 L砂川(延) SL野村 佐野 田中(重) 春本 福原  
3班 L三木(悦) SL安田 松下 村上 矢根 山本(正)
- 行動記録：[10日] 中の湯温泉 8:00 発ーゲート前 8:15 発～上高地釜トンネル 9:00 発～トンネル出口 9:28 発～大正池(10:00 着・トイレ休憩)～中ノ瀬 10:45 発～河童橋 12:40 発～大正池(14:50 着・トイレ休憩)～上高地トンネル 15:15 発～釜トンネル 15:25 発～ゲート 15:50 発～送迎バス 15:55 発ー中の湯温泉(16:15 着)



## ◆初めてのスノーシューで上高地を歩く

黒本

今回の泊まり山行は、好天に恵まれ、最高の山の景色を満喫できた山行でした。

1日目は移動だけだったので、私は、夜行バスで朝の6時30分に松本入りして、半日市内観光を楽しみました。松本市役所6階の展望室からは、松本城が正面に見え、その後方に日本アルプスが眺望できました。集合時間は、14時30分で、他のメンバーは、青春18切符組と新幹線+特急「しなの」組といろんな方法で松本駅へ。そこからは、旅館のマイクロバスとレンタカーを使い、16時頃に中の湯温泉旅館に到着。焼岳の麓に立つ秘湯を守る会会員の温泉旅館で、1915年(大正4年)創業です。1998年に移転しているので建物は新しく、玄関先には、背丈ほどの雪の壁があり、屋根にもいつ落ちてきてもおかしくないほどの雪が積もっていました。穂高連峰をロビー・部屋・食堂・露天風呂といろんな所から見ることができ、食事も美味しく、山の幸、海の幸、郷土料理等と盛りだくさんの会席料理と温泉でゆっくりできる旅館でした。

2日目は、初めてのスノーシュー。スノーシューは、レンタルで前日にサイズ合わせと装着の仕方を教えてもらい、ザックに括り付けて出発。上高地の入り口の釜トンネルまでバスで移動して、高低差200mで1.3Kmと長く灯りのない釜トンネルを会長を先頭にヘッドライトを頼りに30分程歩きました。(会長の歩みがいつもより早く感じたのは私だけでは無いと思います。)上高地トンネルを抜けて開けた所でスノーシューを装着して、スノーシューハイクの始まり、ぎこちない歩きでしたが、リーダーに頑張っついて行きました。大正池ホテルの前のフェンスに子供の毛繕いをしている親子のニホンザルがいて、撮影会状態になって



も逃げることなく写真に収まってくれました。川岸を歩いてたり、木に登ってたりとあちらこちらにいて、上高地の住人のようでした。樹林帯に入り、糞があちこちに落ちているので避けながら歩きました。河童橋に昼までに着けないと、リーダーが少しペースを上げて歩き始めたので、必死について歩きました。上高地帝国ホテルを過ぎ、樹林帯を抜けると一気に開けてバスターミナルに到着。スノーシューにも少し慣れたので踏み跡のない所を歩いてみました。表面が少し凍ってるのかシャリシャリと下には少し柔らかい雪を足下を感じながら歩きました。初めての上高地は、風もなく真っ青な空の下、真っ白な雪原と雄大な山々が連なり、とても素晴らしい景色で感動しました。周りの景色に見とれて、スノーシューを履いていることを忘れ、振り向くときにバランスを崩し転倒。同じように転んでいる人も…。シーズン中なら人で混雑している河童橋も誰も居らず、こんな機会はないと思いました。昼食のおにぎりは、冷たくなるからとカイロを添えてくれた旅館の気遣いは有り難かったです。帰りは、梓川の右岸を歩きました。梓川の周辺には唐松の林があり、唐松は、日本固有種で唯一の落葉針葉樹で、秋には黄色に染まるから、秋の上高地もいいとリーダーの話、いつか来たいと思いました。田代橋を

渡り、左岸を歩き、田代湿原(よく見る上高地の写真の撮影場所)を通り、大正池へ(ここでは逆さ焼岳を見ました。)車道に出る前にスノーシューを外し、長いトンネルを戻りました。



日が差していてトンネルの急勾配を実感しました。出口に着き、程なくしてバスのお迎え、旅館のゲートの所で、女性二人の車が雪に乗り上げ立ち往生。「皆で持ち上げたら、手伝いましょか？」とバスの中では手伝う気満々。「必要ならお願いします」と、運転手が降りて、後続車の男性数人で難なく移動でき、車内では出番が無く、少し残念そうに「良かった」と。旅館に戻り、お風呂に入り、汗を流してからのビールのおいしかったこと。

3日目は、朝の露天風呂で先輩の話を「若い頃に山登りに誘われ、登ったのが穂高だった。」とか、お話をいろいろ聞くことができ、気付けば1時間経っていました。朝食もお腹いっぱい食べて、青春18切符組は、9時にチェックアウトし、特急「しなの」+新幹線組は、12時までロビーでゆっくりと過ごし帰路に就きました。

久しぶりの遠出で日常を忘れて、素晴らしい景色・美味しい食事・楽しい会話と少しのコロナ対策も忘れずにリフレッシュできました。いい時期に計画・お世話をして頂きありがとうございました。

## 2022.3.13 兵庫県勤労者山岳連盟・六甲全山縦走統一デー 西コース9名、東コース10名が完歩しました

### ■六甲西半縦走

- 日 程：3月13日(日)
- 参加者：L尾内 SL森本 天野 上田 乙坂 島谷 須増 徳本 三木(悦)
- 行動記録:須磨浦公園駅(7:20 着)ストレッチ 7:40 発～旗振山 8:15 発～横尾山(9:35 着)9:40 発～妙法寺(10:35 着)10:50 発～高取山市民公園(11:55 着)昼食 12:15 発～鶴越駅 13:05 発～菊水山(14:45 着)15:00 発～鍋蓋山(16:15 着)16:25 発～大龍寺 16:50 発～市ヶ原(17:05 着)17:15 発～新神戸駅(18:05 着)

### ◆久しぶりの六甲山

### 乙坂

コロナで出来るだけ外出を控えていたので、久しぶりの六甲山行でした。そして「六甲西半縦走」の挑戦は2度目です。1度目の挑戦は菊水山直前で離脱…心臓が壊れそうで、後半のグループに合流した苦い思い出があります。

今回、「今日は急ぐ事もないので、ゆっくり歩きましょう」と言うリーダーの言葉通り、私にとっては丁度よいペースで歩く事が出来ました。

妙法寺を過ぎ、道路を歩いた後の高取山が一番キツク感じ、菊水山からはストックを使い、残りの距離に備えました。

長距離を歩くと、どこかしら痛い所が出てきますが、皆さん色んな対処法をされているようです。

私は足の小指が隣の指を圧迫する為、5本指ソックスを履いて対処しています。他の方も同じ症状で、テーピングを巻く等。悩みは色々で、前のめりになり、親指が当たって痛い。靴擦れ。大量に汗をかいた後に足が攣る。かき氷を食べた後足が攣る。

登山靴の悩みでは、キツク結んでもすぐ緩むなどは同じメーカーの靴で起こっているようで。。一度調査すると面白いなあと思いました。

3/13、本来なら兵庫労山の「六甲全山縦走大会」が行われる予定でしたが、各会で行う事になっていた為、ちらほら団体で歩かれていました。

リーダーの尾内様、参加の皆様、無事に皆で歩き通せたので、長距離を歩くアルプス方面へも行けそうですね！ありがとうございました。

私は2日後にひどい筋肉痛になりましたが、皆様は如何でしたでしょうか？



## ■六甲分割縦走シリーズ⑤

## ＜ゆっくりリズム＞

- 日 程：3月13日(日)
- 参加者：L藤原(千) SL矢根 兼澤 黒本 佐野 澤田(律) 砂川(延) 橋本(万) 春本 福原
- 行動記録：ケーブル下駅 8:00 発ーケーブル山上駅(8:10 着)8:20 発～みよし観音(9:00 着)9:05 発～最高峰(10:25 着)10:40 発～一軒茶屋(10:55 着)11:20 発～船坂峠(12:30 着)12:45 発～大谷乗越(13:40 着)13:50 発～塩尾寺(15:05 着)15:15 発～塩尾寺休憩所(15:30 着)15:40 発～宝塚駅(16:15 着)

### ◆六甲分割縦走シリーズ⑤に参加して

### 橋本(万)

「3年半をかけてのこのシリーズがやっと最終日が迎えられた」とリーダーの藤原さん、お疲れ様でした。本来なら第55回六甲全山縦走大会開催の予定日でしたが2年続きの中止となり、六甲集中登山日としてこの日に合わせられたということでした。本日の出発地点、六甲ケーブル山上駅へは今年90周年を迎えたケーブルカーの記念バッチを頂いての乗車となりました。(先着100名様限りの黄色い缶バッチ、4月からはピンク色の缶バッチに変わるそうです。)



ケーブル下8時乗車、8時10分着。兼澤さんのストレッチ指導後、先ずは「みよし観音」を目指して出発。みよし観音像は1

964年2月18日に大阪空港から徳島空港に向かう飛行機が離陸直後に墜落事故を起こした際に亡くなられた乗務員の美人スチュワーデスの麻島美代子さんのモニュメントだそうです。像の足元には美代子さんを讃えた森繁久彌や石原慎太郎の歌碑がありました。

世間話を楽しみながらガーデンテラスから六甲山山頂へ。途中の気温は寒くもなく暑くもなくで、視界は海や街がハッキリとは見えないが時折ビルや海が光って見えた。また道すがらにはバードウォッチングが楽しめるほど小鳥の声と姿が堪能できました。この時期なのにウグイスは上手に「ホーホケキョ」と完成度の高い鳴き声を発し、道ばたの木の枝にはホオジロ、ヤマガラ、エナガを見ることができました。

一軒茶屋北のトイレはログハウス風で長いベンチも造られており休憩場所としてもステキな綺麗な処に変わっていました。

最後のエスケープルートになる船坂峠でも誰もリタイアすることなく宝塚へと道を進みました。そこから塩尾寺(えんぺいじ)までが恐怖の道のりとなりました。ザレ土、谷道、大きな段差道、心配していた膝ガク症状がでてきて足は棒のようになりました。全山縦走であれば、この辺はもう真っ暗闇です。ヘッドランプをつけこの過酷な道のりを時間と闘いながら歩かれた先輩方には頭が下がります。

私にとっては六甲山山頂から東の道は初めての経験でした。無事に山行を終えさせて頂きリーダーはじめ皆さんのおかげでした。ありがとうございました。また、前々日まで「スノーシュー上高地」山行に参加され疲れが残っているだろうメンバーが半数おられたのに飄々と歩かれていたのにも驚きでした。おつかれさまでした！

## ■平荘湖周辺の山 鍋山～升田山～黒岩山

## ＜女性委員会＞

●日 程：3月17日(木)

●参加者：1班 L三木(悦) SL砂川(延) 貝塚(陽) 佐野 澤田(律) 砂川(美) 田中(由) 福原 村上

2班 L待場 SL小田 垣内 島谷 瀧原 3班 L徳本 SL藤原(千) 尾内 坂本 安田

●行動記録: [1班] ウェルネスパーク駐車場 9:05 発～鍋山 9:20 発～平荘湖 9:30 発～升田山 登山口 9:31～升田山 10:15～弁財天神社 10:32 発～黒岩山(11:20 着・ロープワーク)11:45 発～ウェルネスパーク駐車場(12:05 着)

[2班・3班] ウェルネスパーク駐車場 9:10 発～鍋山 9:22 発～平荘湖 9:30 発～升田山登山口 9:32～升田山 10:16～弁財天神社(10:32 着)10:37 発～黒岩山(11:20 着・ロープワーク)12:00 発～ウェルネスパーク駐車場(12:15 着)

### ◆里山歩きとロープワークとランチを終えて

### 垣内

女性委員会の山行計画をたてる時近場で皆が参加できる山行があればと思っていたが今回三木さんの提案で平荘湖周辺を歩きロープワークをしてランチというのが実現した。以前土曜トレで平荘湖のまわりを歩いていたが、今回鍋山、升田山、黒岩山の低山を歩いた。私は初めて歩くコースだった。升田山では古墳時代後期の古墳が雑木の下にあるようで立て札がたくさんあった。古墳ロードである。どんな人が埋葬されているのか、生前の生活など想像しながら、もうすぐするとミツバツツジの花が登山道を彩るころまた歩いてみたいと感じました。

石の採石場もあり上から覗くと目がくらみそうでした。多くの石を切り出したあとが絶壁となっている。

黒岩山ではロープワークを練習しました。しばらくやってなかったのでさび付いた頭のさびを落としながら山頂で練習し、実際に長い2本のロープを使いロープワークの練習をしながら下山しました。事前にロープを張って下さっていたようで長いロープを使いながら、巻き付け結びは余り沢山まくと



動きが良くないな～等思いながら岩を降りました。整理体操の後ランチ場所まで歩きました。昔の田の字の家を改装された懐かしい作りで生家にいる雰囲気ですランチをたべました。

ロープの使い方を指導していただいた会長や準備が大変だったろう、三木さんはじめお世話いただいた皆様本当に有り難うございました。頭のさびを少し落とせたよい1日でした。

### ◆一口感想

### 坂本

ランチにつられて参加しました。山に登るだけでなく、皆さんの顔を見ながらお話することができ、とてもよかったです。ありがとうございました。

てんぐやま  
■天狗山

- 日 程：3月21日(月・祝)
- 参加者：A班 L砂川(延) SL藤原(千) 黒本 佐野 島谷 徳本 矢根 山本(正) 吉村  
B班 L上田 SL松下 坂本 瀧原 立花 田羅間 春本
- 行動記録：JR 寒河駅前駐車場 9:27 発～寒河八幡宮 9:35 発～小天狗(ピーク) (10:38 着) 10:46  
発～天狗山(10:58 着) 11:18 発～三ツ池(12:12 着・昼食) 12:45 発～寒河峠 13:25  
発～トンネル 13:38 発～港の見える丘公園 14:33 着 14:58 発～JR 日生駅(15:20 着)



## ◆天狗山から日生

佐野

3月21日丁度一年前にも訪れた寒河駅からの山行です。

寒河駅でストレッチをし八幡宮にて山行が無事に行けるようにお参りし登山口よりいざ出発！登山道はピンクの印があり迷わず進んで行け、前山から小天狗へと後ろを見ると、瀬戸内の島々が広がっていました。登りはじめは曇り空でしたが青空が広がり素晴らしい景色を眺めることが出来、又、天狗山頂上からはクルーザーを双眼鏡で見る事が出来ました。北を眺めると雪の積もった山々が(氷ノ山?)望めました。

山道は1人だけしか行くことが出来なく、幸い人とすれ違う事は無かったので良かったです。

三ツ池を上から見るとハートの形の様に見え、今で言う映える景色でした。上からは点の様に見えた鴨を観ながら昼食を頂いた後車道を下り県道を暫く歩くとトンネルに着き、そこでヘッドライトを装着！しかし先には直ぐ明かりが見えていました。

林道を行き民家迄降りて来たら、早咲きの桜やボケの花が咲き誇って癒され、日生方面迄近づいたので駅に行くと思いきや、又々、坂道を車が行くのを横目で見ながら、海の見える丘までフラフラになりながら辿り着きました。しかし頑張ってきたお陰で雄大な瀬戸内の島々や日生大橋を見る事が出来て良かったです。

お天気にも恵まれ素敵な山行になりました。ありがとうございました。

## ◆「天狗山と楯越山」

島谷

「近郊の山」の会山行に慣れてしまいました。今回は久しぶりの県またぎ山行ができました。そう、天狗山は岡山県。なかなか読めない駅名 JR「寒河（そうご）駅」の北にあり、寒河八幡宮の備前焼の狛犬さんに見送られ急登をのぼります。汗がにじむ頃、振り返ると川のように見える日生湾と、いくつもの島々が美しいです。その向こうに少し霞んだ大きな島が小豆島で、800mを超える山がある割には低くみえました。それでも、幾多の小島をしたがえて、頂上には雲がかかるほどの高さの山があり、「小豆島 かつこええ」が正直な感想です。



小天狗山を過ぎ、天狗山山頂は、とても見晴しがいいです。その昔、旗振りの中継地点だったということも合点がいきます。大阪の米相場を各地の中継を経て全国へ伝える旗振りです。この山頂では、赤穂市からの旗振りを望遠鏡で確認し、西の熊山と西大平山に信号を送っていたと考えられるそうです。今日の私達は、北には雪が残る千ヶ峰・笠形、南には日生の海をいく大型クルーズ船（小さくみえましたが。）の眺めを楽しみました。西へ下る途中、小天狗山と天狗山がきれいに並んで見えるところがあり、その角度からは、急登の天狗山がとてもなだらかな優しい山に感じられ、「これぞ天狗マジック！」。

今回は、おまけで日生湾に突き出た「楯越山（126m）」にのぼりました。舗装されたせまい車道を歩くこと1キロ、ここが、しんどかったです。でも、一見の価値あり。日生の観光スポット、すばらしい眺め、整備された展望台、桜の時期は見事であろうと想像できます。

さて、ザックには常時装備品は入っているでしょうか？今回、リーダーから突然「トンネルやからライト出して」と。あちこちで「え？あるやろか」「電池がきれてるかも」「聞いてないで」と声がでましたが、ほぼ、ちゃんと使用できる状態で準備完了できました。

## ■日笠山山塊 桜の名所と遺跡巡り

●日 程：3月31日(木)

●参加者：L森本 SL春本 兼本 坂本 佐野 澤田(律) 高島 藤原(千) 村上 安田

●行動記録：山電大塩駅(9:00 着)9:10 発～黒岩摩崖仏(9:50 着)9:55 発～日笠山貝塚(10:00 着)10:05 発～日笠山(10:10 着)10:20 発～馬坂峠 10:45～一本松展望所(11:40 着)12:00 発～亀岩(12:10 着)12:15 発～西法寺(12:50 着)12:55 発～山電大塩駅(13:05 着)

## ◆桜満開の日笠山

坂本

日笠山には5～6年ぐらい前にのじぎくを見に登ったことがあります。もうすっかり忘れてしまっていたので、もう一度登ってみたいと思っていた山でした。

数日前から雨模様と想像していたのですが、やはり当日は朝から小雨。でも、きっと止むだ

ろうと信じていました。

9時、山電大塩駅前駐輪場集合、その時雨は止んでいました。塩田で財をなした塩御殿の屋敷や蔵を見ながら進んでいくと、先の小高い山が薄桃色にモコモコと膨れ上がっているのです。そこが日笠山、登るとちょうど桜が満開でした。また下って黒岩磨崖十三仏・日笠山貝塚を見て再び日笠山の山頂へ。そこからアップダウンを繰り返しながら、馬坂峠。以前はここから大塩駅にもどって帰ったのですが、今回は細い脇道から再び山の中へ、また少し雨が降り出しました。



大塩山城跡、2月に起きた高砂市の山火事の現場も見ました。春咲くコバノミツバツツジの木が燃えていてかわいそうでした。最高地点の一本松展望所に着き昼ごはん。この頃雨は完全に止んでいました。目の前には高砂・姫路の海が広がり、高いところから見るととてもいい景色でした。私は、瀬戸内海の海の景色が大好きなので感動、登ってよかったです。北脇の山の奇岩「亀岩」を見て下山、北脇城址（西法寺）に立ち寄りしました。

日笠山は低い山と軽く見ていたのですが、日笠山山塊はすごく登りごたえのある魅力ある山行でした。皆さんありがとうございました。

## ■行者岳（多々良木ダム側から）

●日 程：4月1日(金)

●参加者：L佐々木 SL三木(悦) 尾内 木下 黒本 砂川(延) 須増 春本

●行動記録：道の駅あさご 8:10 発～芸術の森(8:15 着)8:40 発～登山口ダム湖側(8:45 着)8:50 発～P606(9:40 着)9:45 発～行者堂跡(10:05 着)10:20 発～展望岩 11:00 発～行者岳 11:20 発～展望岩 11:30 発～P583 12:15 発～峠 13:15 発～三本松 13:40 発～P440 14:10 発～P370 14:30 発～配水槽 14:50 発～登山口（道の駅側）15:00 発～道の駅あさご(15:10 着)

## ◆行者岳

## 須増

朝7:00最初の乗り合わせ集合地の鹿島神社の大鳥居に行く。朝の弱い私には、少々厳しい時間である。現地へは直行の人が2人、乗り合わせの人が6人の参加者は8人（車4台）。

台数が多いのは、この日の夕方にカコムで編集委員会の集まりがあるためだった。ご苦労さまです。

播但道利用で「道の駅あさご村おこしセンター」には予定より早く到着。車2台を置き、更に2台に分乗して登山口へ向けて出発。途中、「あさご芸術の森美術館」に寄り、ユニークな動物のモニュメントの場所で写真を撮影。周りに植えられている種類の多い桜の花も綺麗だった。

「多々良木ダム湖」の左岸に沿って少し行くと登山口に広い駐車場があり、車2台を止めた。沢の下部分であるので、登山口は湿地でぬかるんでいた。駐車場横には24丁目の石仏があっ





た。稜線上に出ると弥勒菩薩が現れ、その後、今は小さなお堂がある行者堂跡に着いた。春本さん・黒本さんの二人は、巨岩の上部の祠に安置されているという「役の小角像」を見に登っていた。そこから少し先にある展望台からは、多々良木ダムや発電所まで見える。少し登ると行者岳の頂上にやっとなら着いた。展望は悪かったが、少し早い昼食を摂る。ここまでは名前の通り修験の山という感じがした。鉄製の階段・クサリ・ロープのある急登だったので、普段の山行とは違い、注意の要る個所が多く運動量的にもしんどかった。

行者岳から先は登山者があまり歩いていない方面なので、道迷いに注意が必要と言われていた。三木さんの事前情報では、注意ポイントとして3ヶ所上げられていた。P 6 2 6 付

近の分岐、P 4 4 0 の分岐、P 3 7 0 の分岐など。それと配置がよく分からない鹿よけネットのところである。

当日は、早くも方向の変化するP 6 2 6 地点で少し行き過ぎてしまった。自分もコンパスをその直前から注意していなかったのが原因で、三木さんの YamaReco に助けられた。

後半のコースは、放置された倒木も多く整備されていなかった。滑ったり、頭を打ったりしながら行者岳を過ぎると標識も少なくなり、ピンクのリボンを意識しながら歩く。尾根筋では馬酔木（あせび）の木が多く見られた。鹿よけネットを過ぎて峠のポイントで、エスケープルート（沢筋）を下山するか計画通り行くかについて、C L の佐々木さんから参加者に相談があったが、エスケープの方が不明瞭に見えたので、そのまま進むことに決まった。行者岳の直後と標高 5 8 6 m（点名：三本松）から下山口までは、行者岳までとは逆で急な下り坂であった。

この日、雨は大丈夫だったが気温が低く、終盤のP 3 7 0 からの下り部では、風を受けやすい

地形で周りに木も少ない所だったが、落ち葉も吹き飛ばされるほどの風で寒かった（正午の気温 1 0 ℃、風速 7 m/s との予想がされていた）下山は長い階段を下った「多々良木配水池入口」である。建築用プレハブ住宅風の建物（2階建）の西側の所で、ここから道の駅は、すぐの距離だった。下山後に道の駅で注文したコーヒーは期待以上であり美味しかった。店



員さんの話では行者岳では毎年山開きの行事をしているとのこと。我々は、その前に登ったようであるが、話の続きで「まあ登ってきたんだからいいよね」と言われた。

下山後は、春本さんの車で登山口まで車の回収に行き、その後は計画通りの配車で帰った。行者岳から 1 0 k m ほど北にある竹田城跡が見えるらしいが確認漏れ。残雪の氷ノ山辺りを見ることが出来た。「ふるさと兵庫 1 0 0 山」の本に紹介されているコースは、岩屋観音の山門～北側にある多々良木ダム湖側へ抜ける尾根道が主であり、開けているようである。私はまだ岩屋観音を見ていないが一度行ってみたい。参加された皆さん、楽しい山行お疲れさまでした。

## ■ラベンダーパーク～大井戸山～竜ヶ岳

＜女性委員会＞

●日 程：4月1日(金)

●参加者：L垣内 SL小田 生永 香川 木村 田中(由) 中村 苦瓜 橋本(万) 村上

●行動記録：駐車場 9:30 発～大井戸山 11:25～昼食(12:00 着)12:20 発～清水坂 12:25～竜ヶ岳  
(13:30 着)13:45 発～清水坂(14:15 着)14:25 発～竜ヶ岳登山口 15:15～駐車場  
(15:35 着)

## ◆ラベンダーパーク～大井戸山～竜ヶ岳

村上



集合場所のラベンダーパーク多可に心惹かれて申し込みましたが、私の運転では不安なのでNさんの車に同乗させて頂きました。

つくしが顔を出しているラベンダーパークの中央の階段を登り切り、馬酔木の花の咲く東屋を過ぎてからもひたすら登りです。やっと尾根に出てこの分岐からは大井戸山山頂へ約360メートル。稜線を吹く風は冷たく、巨大な岩を縫うように狭い危険な尾根道を進み、大井戸山頂(794.2メ

ートル)にて小休止ほっとする間もなく急斜面を降りることになりました。

途中で昼休憩をとり清水峠まで下ると、新しい小屋に守られたお地藏さんが佇んでいました。峠からは竜ヶ岳へ往復ですが、幾つかのピークでは竜ヶ岳登山道の標識があり、辿り着いた竜ヶ岳山頂(816.7メートル)は絶景ポイントです。山々に包まれるように集落が見渡せます。ひらかれた南面から千ヶ峰、笠形山が見え西方には雪山が見えました。

休憩の後はアップダウンを繰り返し清水峠へ、後は枝打ちされた檜の美しい登山道を下るばかり、檜や杉の木立の中に又谷間にミツマタのポンポンのような可愛い黄色の花が群生していて、とても幻想的な風景でした。

大井戸山山頂を少し下った所から竜ヶ岳山頂のコースは昨年11月に行われたTAMBAアドベンチャートレイル174kmのコースを辿ったのです。私はグレートレースをテレビで見るのが好きなので、ほんの一部ですが同じコースを辿れて幸せな一日でした。



## ■賤ヶ岳（421m）滋賀県

●日 程：4月2日(土)

●参加者：A班 L瀧原 SL尾越 生永 兼澤 佐野 澤田(律) 田中(重) 田羅間 本田 待場  
B班 L島谷 SL春本 小田 笹木 高島 徳本 福原 矢根

●行動記録：余呉駅(9:28 着) 9:35 発～余呉湖観光間(9:45 着) 10:05 発～江土登山口(10:15 着)～大岩山(11:00 着) 11:05 発～賤ヶ岳山頂(12:05 着・昼食) 12:55 発～飯ノ浦分岐(13:10 着)～余呉湖下山口(13:30 着)～余呉湖観光間(14:25 着) 14:45 発～余呉駅(14:50 着) 15:11 発

### ◆素晴らしい眺望、賤ヶ岳

本田

滋賀県長浜市に位置する「賤ヶ岳」は標高421、9mの山で、標高は低いものの、南に日本最大の湖である琵琶湖。北には余呉湖が広がる。ふたつの湖の境にそびえる眺望峰「賤ヶ岳」。戦国時代の激戦「賤ヶ岳の戦い」の舞台となった魅力溢れる山である。

4月2日。この日は風もなく、穏やかな山行にピッタリの好日。

リーダーさんのお骨折りで青春18きっぷを使つての山行で、若返つた気分です。

姫路駅、宝殿駅、加古川駅、三宮駅から、それぞれ新快速近江塩津行きに乗り込み目的の余呉駅まで列車の旅を楽しみました。

窓から見える桜の開花の様子も移り変わり、阪神間で開いていた桜も余呉近くの桜はまだ蕾硬しという状態で、もう1週間ぐらいすると見頃かな。

9時28分、余呉駅到着。余呉駅から余呉観光館まで移動し、ストレッチを済ませて江土登山口からゆっくとスタート。木立の中の登山道を進み、15分程歩くと岩崎山。登山道から外れ、左手奥の杉林に囲まれた「高山右近の砦」を見て、また元の道へ戻り大岩山へと緩やかな登り道を進んで行く。右手に余呉湖がずーっと見えているはずだが杉林が邪魔をするので木々の隙間から時々、青い湖面が見える程度です。中川清秀の墓の所でちょっと休憩。その後、またまた、登山道を左に逸れて50m程下り、四方1mほどの「首洗いの池」へ。余りの小ささに驚く。

ここで血の付いた首を本当に洗つたのだろうか？どんな様子で？なかなか想像ができない。

登山道に戻り、猿が馬場を超え、上りの続く尾根の道を賤ヶ岳山頂目指して進んでいると右下に大きく余呉湖と左下に街並みが見える。いよいよ最後の急な坂道。空に突き出たように見える斜面を登ると賤ヶ岳山頂でした。

武将像や戦跡碑がある山頂からの絶景に見入ってしまう。目の前の雪を頂き連なる山々、静かに水を湛え



る余呉湖、琵琶湖等々。素晴らしい本物の眺めに空気の香り。ああ、賤ヶ岳山行に参加してよかったーと叫びたくなりました。

余呉湖側の絶景を眺めながらのお弁当タイムは最高でした。

下山は展望台横から出発し、飯ノ浦切通し（分岐）を右折して余呉湖荘登山口まで、ずんずんと一気に下る。余呉湖の湖面がぐっぐと迫ってくるように思えました。余呉湖荘登山口から余呉湖観光館まで湖畔道路をひたすら歩き、整理運動をして朝、降りた余呉駅へと。

参加者18名は素敵な山行を終え、予定通り15時11分播州赤穂行に乗り込み帰路に就くことが出来ました。

本当に素晴らしい山行が出来たのもリーダーの瀧原さんの綿密な計画とお心遣いのおかげです。ありがとうございました。

## ■春の唐松岳

## <アルプ>

●日 程：4月4日(月)～6日(水)

●参加者：L竹内 SL三木(悦) 尾内

●行動記録：八方池山荘 6:47 発～第三ケルン(7:46 着)7:56 発～丸山(9:17 着)9:32 発～唐松岳頂上山荘(10:44 着)10:53 発～唐松岳(11:18 着)11:32 発～唐松岳頂上山荘(11:46 着)12:03 発～丸山(12:35 着)12:40 発～第三ケルン 13:22～八方池山荘(13:42 着)

## ◆雪の唐松岳・大パノラマに魅せられて

## 三木(悦)



春の唐松岳、念願だった計画が実施されることになった。山頂を踏むには風に大きく左右され途中撤退も十分あり得るので只々穏やかな天気を願った。幸い天気に恵まれ、静かに白く輝く八方尾根を経て雲一つない青空の唐松岳と頂からの大パノラマを堪能してきた。

【4日】各地から乗り継ぎ白馬駅へ、さらにゴンドラとリフトを3基乗り継ぐ「八方アルペンライン」を利用して標高1,830mまで一気にアプローチ

できた。リフトを降りると今日の宿、八方池山荘。山荘では私達を含め唐松岳や手前の丸山に登る4組11名の宿泊客だった。

翌日の登山準備を手早く済ませシャワーを浴び夕食を頂き明日に備え早目の就寝とした。

【5日】5時起床、朝食後6時47分出発。晴天、風も無く予想以上の好天気のもと、唐松岳を目指した。朝は雪がしまっているのでアイゼンがよく効き歩きやすく、トレースもしっかりついていて。絶景に包まれ気持ちも高揚して第2ケルン、八方ケルン、第3ケルンと順調に歩を進めていく。ところが上の樺(2213m)あたりから0さんと私、軽い高山病の兆しか？思うように足が上がりずペースがスローになり先を歩くLの背に追い付けない。目の丸山(2433m)が遠くに感じ気持ちが折れそうになる。美しい景色に元気をもらいながら1歩ずつ1歩ずつ繋げた結果、唐松岳頂上山荘へ予定の時間に到着できた。



休憩をとりザックをデポして空身で登るが、山頂直下の急斜面では疲れた足にかなり堪えた。ピッケルを持つ手には力が入る。

見上げると10mほど先にいるLが「ここ山頂〜！」との声、フッと足が軽くなった。唐松岳(2695.9m)登頂。山頂には同宿の先に出た2組のパーティがいた。360度好展望のピークに立ち0さんとハイタッチ。山頂から見る雪山はとにかく美しい！苦勞して登った分、格別である。美しさの中しばらく達成感に浸った。山荘〜頂上への上り30分、頂上〜山荘への下りは20分だった。ザックをデポした場所でタイミングよく昼食時となる。しっかり食べることができたので高山病の心配も消えた。エネルギーチャージを済ませたら下山モードに切り替える。気温が上がり午後は湿雪に変わっているだろう、急斜面、細い尾根で踏み抜かないように慎重に下りなければいけない。下りはLにピッタリ付いてどンドン・・ついて行く0さん、数回踏み抜きながら私もそれに続く。八方池山荘に着いたのは予定の時間より1時間以上早かった。“よく頑張りました私達”下り最終リフトに十分間に合った。

GPSデータでは距離9.3km、上り957m、下り957m、タイム6時間53分(休憩込み)だった。標準タイムと記されている。ちなみに若人は5〜6時間でピストンしている。天気を味方に登頂と無事下山できたことに感謝して麓へ下りた。

【6日】山麓の湯で疲れを解して白馬駅を起点に帰路につく。白馬駅正面から「八方アルペンライン」と昨日歩いた稜線の向こうに唐松岳がはっきり確認できた。稜線をなぞれば新たな感動がこみ上げてきた。大糸線の車窓からアルプスの景色を楽しみながら松本駅へ到着、駅弁を手に「しなの12号」に乗り込んだ。ちょっと贅沢な2泊3日の山旅が終わった。

アクセスは大変だがアルプス春山の良さを再発見できた山行となった。アイゼントレから始まり厳冬期の三室山、蘇武岳、そして目標の唐松岳を無事終えることが出来た。

計画、実施までお世話になったLと雪山全ての山行を共にした0さんに感謝して充実した今期の雪山を終了する。

## ■新竜アルプス

●日 程：4月6日(水)

●参加者：L上田 SL須増 兼澤 澤田(律) 高島 春本 待場 森本

●行動記録：播磨新宮駅 7:40 発〜市野保(8:10 着)〜水布弥登山口(8:20 着)8:35 発〜十字路(9:05 着)〜祇園岳(9:15 着)9:30 発〜十字路(9:35 着)〜亀池(10:00 着)10:10 発〜城山(10:35 着)11:00 発〜三基墓(11:10 着)11:15 発〜382.7 ピーク(11:45 着)11:55 発〜的場山(12:30 着)12:45 発〜両見坂(13:15 着)13:25 発〜野見宿祢神社(13:35 着)13:50 発〜龍野城(14:00 着) 14:35 発〜本竜野駅(15:00 着)

## ◆新竜アルプスを歩く

兼澤

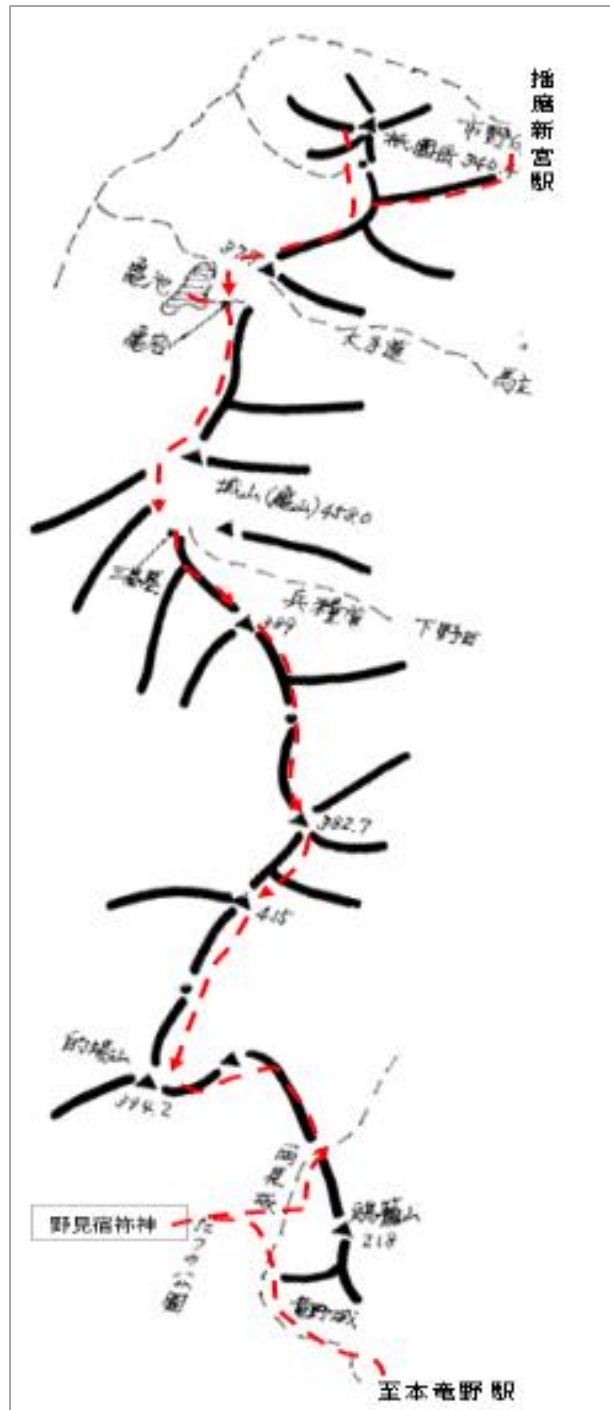
6時45分、JR姫路駅姫新線ホームに集合した。

天気は「雨の心配は 全く 無い」との予報だった。

最高のコンディションが得られ、ワクワクウキウキであった。しかし、車中で「山ヒル」の話となった。今日のコースでは、水布弥登山口から最初のピーク、祇園岳の間で、過去に「山ヒル」悩まされた、とのことであった。この山の登山経験者のみなさんは、それぞれ、山ヒル用スプレー・ポイズンリムーバー・ライター・塩・線香・スパッツ等を準備して対策をたてられていた。

【新竜アルプス概念図】

私は、過去に 他の山で、山ヒルやダニに被害を受けた苦い経験があるので、トラウマになった。先ほどまでのワクワクウキウキ感が吹っ飛んでしまって、一転、ブルーな気持ちになった。幸いにも、「山ヒル」に遭遇せず、無事に、最初のピーク「祇園岳」に辿りついた。絶壁に立つと、眼下には、揖保川を中心に集落が点在し、遠くを見渡せば、どこまでも重なり合う山並みがあった。絶景であった。この場所で、昨今の「山小屋」事情の話があった。「今年度の山小屋の状況は、まだ、はっきりと分からないが、宿泊料金が値上げされそうだ。北アルプス縦走であれば、今までより、一万円程度、さらなる出費が必要ではないか？」との話もあった。私は、昨今の山小屋が 過度に居住環境を整備したり、料理を豪華にし過ぎでは無いかと思っている。しかし、登山者には山小屋が必要であり、しっかり守らなければならないと考えている。そのためには、登山者も山小屋の経営者に、手をたずさえていく必要がある。私達、山好きな登山者は、宿泊料金に加え、たとえ1人100円程度でも「奨励金～がんばってください、の願いをこめて～」を考えても良いのではないかとさえ思っている。加えて、個人の負担に頼るばかりではなく、会・県連・全国組織で考え、山小屋経営に金銭的にもエールを送ることを考えてもらいたいと思っている。小さなアップダウンを繰り返しながら、今日の最高地点（458m）の城山（亀山）に到着。早めの（10時30分）昼食タイムとなった。



「三基墓」に到着。播磨地方の有力な赤松一族の終焉の地だそうだ。

さらに、アップダウンを繰り返しながら、尾根を歩いた。日差しはきつくなってきたが、木陰に入ると、風がさわやかで気持ち良かった。

尾根道は、踏みしめられてはいるが、逆に、ザラザラとした砂や小石があって、滑りやすく、気が抜けなかった。

12時30分、的場山(394.2m)に到着。記念写真を撮ったりしながら、休憩した。

今日の山行で最も危険で急な下り坂に備え、脚の疲れを癒した。膝の悪い私は、下りが苦手だ。慎重に慎重に足を運び、無事、急坂をクリア出来た。止めた息を吐き出すような気持ち、無事で良かった、と思った。が、しかし、まだ、地獄が待ち受けていた。



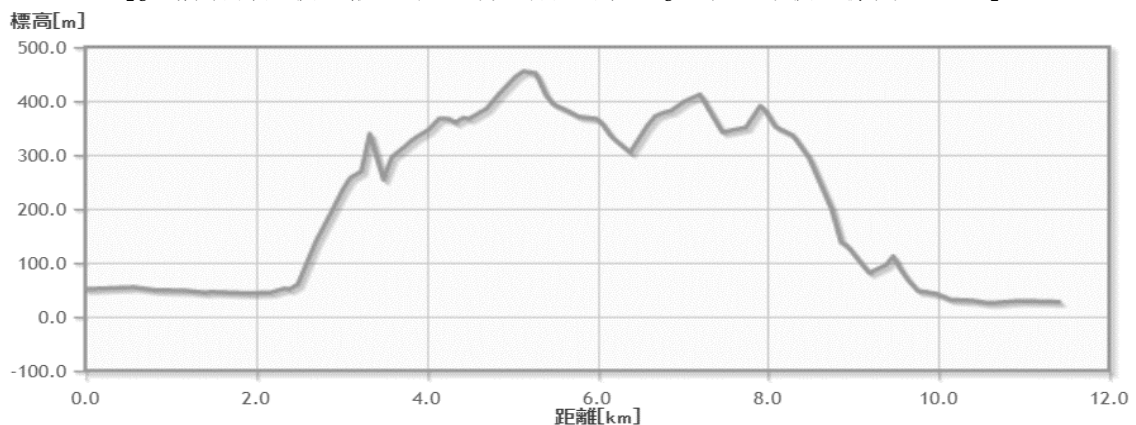
野見宿弥神社に向う階段、まるで天に届くが如くの、長い長い直線の上り階段だった。疲れた脚にはキツイ。脚がつる最高のシチュエーションだ。上を見ず、我慢強く、上り切った。ホッとしたのもつかの間、さらに、地獄は続いた。90度方向転換すると、遙か上方に、鳥居に取り付けた石扉が目飛び込んだ。鳥居の前には急峻な階段が立ち塞がっていた。「これ、登るの?!」。250段までは数えていたが、最後の方は数を数える事も忘れていた。相撲の神様ということで、玉垣は、たくさんの力士や行司が寄進していた。

鳥居の前で記念写真を撮った。次回、もし鳥居まで登り、拝礼するとしたら、相当気合を入れないと駄目な気がした。でも、鳥居からの景色は素晴らしかった。さくらふぶきが舞う中に、瀬戸内海に浮かぶ島々が近くに見えた。一幅の絵のように見えた。

竜野城跡の満開のさくら・城下町の佇まいを楽しみながら、JR本竜野駅に向った。15時17分発の電車に乗り、それぞれの家路についた。

今日、登らせていただいた山々がやさしく、私たちを迎えてくれたことに、また、さくらが満開で、ほほ笑んでくれたことに感謝の山行であった。

【JR 播磨新宮駅～縦走路～野見宿弥神社～JR 本竜野駅・標高グラフ】



## ■高森ボランティア活動と鹿の滝見学

●日 程：3月19日(土)

●参加者：阿久津 内海 黒本 佐々木 佐野 島本 荘所 砂川(延) 須増 西川 春本 待場  
三木(悦) 森本 和田

### ボランティア報告：荘所

場所はウェルネスパーク駐車場の入り口から黒岩山へ上がる登山道の草刈り作業を行い、登山道が広くなり歩きやすくなっています。参加者のみなさん、お疲れ様でした。終了後、一部のみなさんは内海さんの案内で、飯盛山東斜面下にある滝の見学に行きました。

### 鹿の滝報告：須増

参加者：内海 黒本 佐野 島本 須増 西川 春本 森本 和田  
高森ボランティア、お疲れさまでした。ご参考に、滝の写真を1枚送ります。水量が多く、落差は小さいですが、よかったです。周辺の木々の伐採を、参加者で行いましたので、綺麗に見えるようになりました。一度、周辺のごみ拾いをする必要がありそうです。

佐野さんなどが、写真・動画を写されています。



【鹿の滝】

## ■土曜トレと花見

●日 程：4月9日(土)

●場 所：高砂市公園墓地

●花見参加者：阿部 生永 泉 上田 内海 尾内 小田 貝塚(文) 貝塚(陽) 河崎 黒本 坂本 笹木  
佐々木 佐野 荘所 砂川(延) 砂川(美) 立花 田中(重) 田中(由) 徳本 中村 西川  
春本 平井 福原 藤原(千) 藤原(浩) 待場 松井 松下 松本(聡) 村上 森本  
矢根 吉村 和田

### 報告：砂川(延)

今年の花見は土曜トレの後、午後1時から例年の場所、公園墓地から上に上がった尾根上でコロナ禍の影響もあり2年ぶりとなるお花見だった。土曜トレはみどりの相談所前10時集合で高御位山縦走組と裾野を巡る遊歩道組に分かれて歩いて、終了後、公園墓地高台での桜は満開で花吹雪をあびてのお花見宴会だった。

